

スタンフォードが 中高生に教えていること

星 友啓 著

著者はスタンフォード大学・オンラインハイスクールの校長である。

本書では、オンラインであるにもかかわらず、全米のトップ校として知られている同校での教育の実態を紐解きながら、子どもの才能の伸ばし方について、世界の最新教育トレンドについて、そして、教育のミライについて述べられている。

序章では、近年の脳科学や心理学の研究の一部として、これまで良いとされてきた教育の8つの常識が、ミライ型の教育に合わなくなってきているとしている。

第1章では「学校の定番をとっばらう」として、講義ベースの授業の廃止や年齢による学年振り分けの廃止、また、学習到達度や学年の振り分けを制度化し、「Design Your Learning (自分の学習をデザインする)」の精神に基づいて、学習プログラムや時間割を生徒個人のニーズにあわせて最適化し、自分の学習プランを計画できるようにしたことなど、主要な教育改革について紹介されている。

第2章では、「なぜオンライン学校が全米トップになれたのか」として、同校で実施されているオンラインによる「反転授業」の取組が紹介されている。コロナ禍により、オンラインによる教育が注目されているが、実践上の課題も多い。本書では、同校での課題への解決策を示しており、参考となる。

そして、同校の「反転授業」が、従来の講義ベースの授業ではなく、生徒の授業への積極的

な参加を促すことを目的としたものであること、また、子どもの才能を伸ばすための「ギフト教育」や活気ある学校コミュニティーをオンラインでつくるための秘訣、更には生徒指導の在り方にも触れている。

第3章では同校のスクール・ミッションを実現するカリキュラムを取り上げ、子どもたちが社会を「生き抜く力」の育成の方法や「ウェルネス・プログラム」について紹介し、生徒が自分たちのウェルネスに関する適切な知識やスキルを得て、良い習慣を身に付ける必要性について述べている。

第4章では子どもの才能の伸ばし方について、著者が提唱する「学習」の必要性について述べている。教える側に偏った「教育」の視点を学ぶ側へとフォーカスし直し、子どもが「学び育つ」という視点を意識するとともに、子どもがベストな状態で学べる学習条件をサポートすることの必要性について述べている。

第5章では、一人ひとりに合わせたオーダーメイドの学び(パーソナライズド・ラーニング)や能動的に作り上げる学び(アクティブ・ラーニング)、プロジェクト・ベースド・ラーニングなどを例に、現在の世界の教育のメジャートrendと「学びの科学」との関係について述べている。

そして、教育、教師、生徒の役割の変化や人工知能などテクノロジーの拡大に伴う教育のミライを展望し、まとめとしている。

本書は急激な変化を遂げる現代における今後の教育の在り方を考えるよい機会となる。

(SB 新書 258 頁 990 円 (税込))(内藤 敬)